

井原&備前の魅力発掘委員会

高校生ボランティア・アワード2024

【皆が富む社会は「私達」が作る！ 3年間改善を重ねたツアー】

【活動のきっかけ】

生涯に、500の企業と600の福祉事業の設立に関わり「日本資本主義の父」と呼ばれた渋沢栄一氏は、NHK大河ドラマ「青天を衝け」で波乱万丈な人生が放送された。渋沢氏の人生の転機に関わったのが、「岡山県井原市」だ。



【ツアーの見どころ】

2024年から1万円札の肖像としても注目が集まる「渋沢栄一」。しかし、一過性のブームではなく、「持続可能で経済的にも精神的にも幸せを感じる経済を創造していく」という「普遍的な価値観を提供するツアー」を打ち出したいと考えた。



【他のツアーとはここが違う！3つのポイント】

- 1 若き渋沢栄一氏の出世のスタート地点になった井原市内のゆかりの場所を巡り青雲の志を追体験
2 渋沢栄一氏が精神の柱とした論語を岡山県備前市に在る国宝「閑谷学校」で学ぶ
3 西日本最大級の「美星天文台」にて「小惑星Shibusawaeiichi」を観測し渋沢氏の思想に思いを馳せる。

ツアーに参加してもらいたい人たち

経営者、商工会メンバー、会社員(経営の研修旅行) 未来を担う若者、歴史に興味がある方、

ツアーを通して感じてほしいこと

経営者や企業の責任ある立場の人に渋沢栄一氏の説く道徳経済合一に触れてもらい、世の中の利益のための企業活動という視点を学ぶ機会を提供する。



【観光プラン実施概要(昨年度)】

【興讓館】

興讓館は嘉永6年(1853)に地域の子供たちを教育するために開校。校門に掲げられた「興讓館」の扁額は明治45年(1912)に朗盧と親交があった渋沢栄一氏が揮毫したもの。



【興讓館の講堂】

興讓館創立当時からある講堂は渋沢栄一と阪谷朗盧が面会した場所としてされており、現在も当時のまま残っている。興讓館の歴史を知ってもらうための講義を行った。



【興讓館の所蔵物】

興讓館所蔵の徳川慶喜の書や阪谷朗盧直筆の掛け軸など見学をさせてもらった。一般公開していない貴重な所蔵品を見せてもらった。



バスツアー2日間行程(歴史ガイド帯同)

1日目

岡山駅集合->井原市に移動。若き渋沢栄一の出世のスタート地点になった井原市内のゆかりの場所(興讓館高校、山成酒造等)を巡り、青雲の志を追体験。昼食:老舗割烹「まこと」 宿泊:「星の郷ふれあいセンター」 夕食:「星の郷」にて、ケータリング等を利用 夜間:美星天文台にて小惑星「Shibusawaeiichi」& 満天の星空観察会(但し晴天の場合)

2日目

朝食:「星の郷」にて、ケータリングを利用 AM:井原市->備前市に移動 国宝「閑谷学校」で渋沢が精神の柱とした論語を学ぶ。 備前市->岡山市に移動後、昼頃岡山駅にて解散

【老舗割烹まこと】

地元食材を使った和食を堪能。会食中も、渋沢氏の思想や業績を共通のテーマとして、話に花が咲いた。



【山成酒造】

創業以来、酒質の向上に努めてきた酒造。渋沢栄一ゆかりの酒として知られる「蘭の誉」は、論語の「出藍(しゅつらん)の誉(青は藍より出でて、藍よりも青し)」から命名。



【美星天文台】

JAXA美星スペースガードセンターの全面協力を実現。美星天文台の望遠鏡を貸し切り、小惑星「Shibusawaeiichi」を観測した。



【閑谷学校】

国宝の講堂の中で渋沢氏の思想の根本となった論語を素読し、厳かな雰囲気を感じた。



【渋沢生誕の地と、私達の地元のご縁が更につながる！】

★埼玉県深谷市「渋沢栄一記念館」訪問

渋沢栄一の思想「道徳経済合一説」を深く調べていくと、岡山県出身の「三島毅」と相談して「論語と算盤」の中身を作ったという記述があり、「本当なのか？」と驚いた。それを確かめるべく渋沢栄一の生まれ故郷の埼玉県深谷市「渋沢栄一記念館」を訪問した。学芸員さんが対応してくださり、私たちの活動をまとめたポスターをお渡ししたところ、来館者に見てもらえるようにロビーに貼ってくださった。栄一の生家「中ん家」では、栄一が深谷の豊かな自然と温かい人間関係の中で、健やかな身体と柔軟な頭脳、一貫性をもった精神が育成されたことを体感した。渋沢栄一アンドロイドが道徳経済合一説を説明してくれたことも大変印象深かった。



★東京都「渋沢史料館」にて、井上顧問との交流

私達が渋沢栄一記念財団 渋沢史料館に問い合わせたところ、顧問の井上潤氏にお会いできた。私達が取り組む探究活動について説明したところ、井上顧問から「岡山県の高校生が、渋沢の事績・思想を学びそれを広く伝えようとしている姿勢を見て心打たれた。」と、1時間以上お話をしてくださった。その中で「三島毅は、栄一と深く親交のあった人物だ。二松学舎での関係性は言わずもがなだが、二人の思想の根本(三島の「義利合一説」と渋沢の「道徳経済合一論」)は重なっていた。二人の魂のやりとりから「論語と算盤」という言葉が生まれた。」と教えていただいた。渋沢と三島の交流により「論語と算盤」が生まれたことが確認でき、渋沢氏と岡山の縁の深さを再確認した。



「渋沢氏と岡山の縁は、かなり深い。あなたたちの活動やツアーを応援したい。」

私達の今後の展望

これからの私達の予定として、以下のことを計画している。(1)渋沢栄一記念財団 渋沢史料館 井上顧問のラジオ番組 渋沢財団井上顧問にはラジオ番組の中で、3回私たちの活動をご紹介くださり、特に「vol.50 渋沢栄一を通じた次世代教育 伝七郎 渋沢栄一塾」では私たちの道徳経済合一説ツアーを披露して下さった。このラジオ番組に出演してほしいと言われているので、ぜひ私たちの想いを話したい。(2)渋沢史料館 桑原館長や守屋淳氏・研究者との出会い 私達が読んだ『論語と算盤(現代語訳)』の著者 守屋淳氏、渋沢栄一の研究をされている木村昌人氏(関西大学客員教授)、町泉寿郎氏(二松学舎大学教授)にも講演会にてお会いでき、質問やご相談をさせていただけることになった。(3)後輩の活動参加 後輩2名と一緒に活動したいと言ってくれているので、今後も「渋沢栄一と岡山の関係」「道徳経済合一説」について多くの人に知ってもらおう活動が継続していきたい。 ...上記の改善を加え、さらにブラッシュアップを図ることで、私達の手で「皆が富む社会」をつくる活動を積み重ねていきたい。

